

ジョイセフ・パートナーシップ・プログラム (JPP)
アフガニスタン
妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト
2017 年報告書



プロジェクト期間： 2017 年 1 月～12 月
プロジェクト地域及び人口： ナンガハール州ジャララバード市郊外の 10 村 3 万 4000 人
現地協力団体： アフガン医療連合センター (UMCA)
支援協力： 三菱 UFJ 銀行および三菱 UFJ 銀行社会貢献基金、一般財団法人クラレ財団、有限会社 Office MAMA、平原綾香 Jupiter 基金、公益財団法人ベルマーク教育助成財団他、支援者寄附金

長く続いた紛争により、アフガニスタンでは多くの保健医療施設が破壊されました。また、女性の医療従事者がいなければ、女性は病院で診療を受けることができないといった慣習に根ざした課題も残っています。

そこで、ジョイセフでは、ナンガハール州ジャララバード市郊外の農村地域において、女性の保健スタッフを多数配置した母子保健クリニックを運営し、のべ 2 万 7583 人の女性と母子に、保健医療サービスを無償で提供しました。



クリニックでは、診療の待ち時間を活用して保健指導も行い、女性が健康を守るために不可欠な知識も伝えました。

1) 母子保健クリニックでの保健医療サービスの提供

プロジェクト地域の妊産婦と女性、子どもたちのべ2万7583人に対し、保健医療サービスと産前・産後ケア、施設分娩、避妊薬（具）の提供など、母子保健に関連したサービスを提供しました。

また、5876人の子どもと女性にBCG、5種混合、ポリオ、麻疹、破傷風の予防接種を実施しました。



（左上）産前健診を行う助産師（右上）5種混合ワクチンの接種（左下）乳児健診（右下）やけどの治療

2) 母子保健の啓発教育活動の実施

診療の待ち時間を活用し、クリニックスタッフより、妊産婦と女性のべ3万1900人に対して、以下のトピックに関する個別カウンセリングや啓発教育活動を行い、母子保健と疾病の予防に関するメッセージを伝えました。

- ・産前産後健診
- ・家族計画
- ・母乳育児
- ・予防接種
- ・感染症予防
- ・衛生
- ・薬の摂取および保管方法 など



バス・ミーナさん（33歳）

**「風邪を引いた子どもの診療のためにクリニックに来ました。
収入がないので、無料で子どもたちを診てもらえるのはとても助かります」**



ミーナさんの夫は薬物中毒になり更生施設に入所中のため、彼女が一人で3人の小さな子どもたちを育てています。部屋と食事と引き換えに、親類の家で家政婦として働いています。

教育を十分に受けていないために生計の手段が限れる村の女性たちにとって、信頼できる保健サービスを無料で受けられることは、大きな安心になっています。

サラさん（イランからの帰還難民の妻）

「孤立した生活の中で、病気になっても安心して治療してもらえるクリニックの存在は、私の心の支えになっています」

サラさんは、難民としてイランで暮らしていた夫と親の反対を押し切って結婚、アフガニスタンにやってきました。

夫が職を失ったため生活は苦しく、今は夫の親類の家に身を寄せています。イランとは言葉や習慣が異なり、一番辛いのは夫の家族と話ができないこと、と話してくれました。

クリニックでは、マラリアの治療を行い、蚊帳を支給しました。生まれたばかりの長女と一緒に、毎晩、蚊帳の中で一緒に寝ているそうです。



モハメッドくん（11歳）

「クリニックで下痢の治療をしてもらいました。無料で安心して治療してもらえるのでうれしいです」



お父さんが病気がちで6人家族を養うのに十分な現金収入を得られないため、モハメッドくんは、ゴミ収集の仕事で1日に25アフガニ(約40円)を稼いで家計を助けています。

ひどい下痢と吐き気に襲われた時に、お父さんに民間の病院に連れて行ってもらいましたが、点滴代と薬代を払えず治療を受けられませんでした。その後、隣人からクリニックのことを教えてもらい、診療に訪れ、治療を受けました。